

名所をめぐる～浮世絵の中の街道と旅～

展示品目録

	資料名称	作者	制作年代	所蔵者	備考
1	春興五十三駄之内 水口	葛飾北斎	享和4年(1804)	館蔵	里内文庫資料
2	春興五十三駄之内 石部	葛飾北斎	享和4年(1804)	館蔵	里内文庫資料
3	春興五十三駄之内 走井	葛飾北斎	享和4年(1804)	館蔵	里内文庫資料
4	東海道五十三次(絵本駅路鈴) 石辺	葛飾北斎	文化7年頃(1810)	館蔵	里内文庫資料
5	東海道五十三次(絵本駅路鈴) 草津	葛飾北斎	文化7年頃(1810)	館蔵	里内文庫資料
6	(保永堂版) 東海道五十三次之内 石部	歌川広重	原品:天保4~5年頃 (1833~34)	館蔵	里内文庫資料
7	(佐野喜版) 狂歌入東海道 東海道五拾三次 石部	歌川広重	天保後期頃(1840~)	館蔵	
8	(薦吉版) 東海道五十三次之内 土山	歌川広重	嘉永年間(1848~54)	館蔵	里内文庫資料
9	(薦吉版) 東海道五十三次之内 草津	歌川広重	嘉永年間(1848~54)	個人蔵	
10	(薦吉版) 堅絵東海道 五十三次名所図会 土山	歌川広重	安政2年(1855)	館蔵	里内文庫資料
11	(薦吉版) 堅絵東海道 五十三次名所図会 大津	歌川広重	安政2年(1855)	館蔵	里内文庫資料
12	東海道五十三次 土山 朝霧図	三代 歌川広重	明治4年(1871)	館蔵	里内文庫資料
13	東海道五十三次 水口 きせん泊	三代 歌川広重	明治4年(1871)	館蔵	里内文庫資料

令和7年度 ミニ展示「名所をめぐる～浮世絵の中の街道と旅～」

会期：令和7年12月13日土曜日～令和8年2月23日月曜日

主催：栗東歴史民俗博物館

会場：栗東歴史民俗博物館 第1展示室

栗東市小野223-8



博物館HP

補足解説

里内文庫資料

【里内文庫資料】とは葉山村手原（栗東市手原）の郷土史家・里内勝治郎（1877～1956）によって設立された私立図書館・里内文庫の資料を引き継いだものです。勝治郎の死後、旧栗東町に寄贈され、後に滋賀県指定有形文化財に指定されました。その内容は図書を中心に栗東周辺に関わる歴史資料や浮世絵など多岐にわたり、勝治郎の蒐集範囲の手広さを物語っています。

葛飾北斎画 東海道五十三次（絵本駅路鉢）

葛飾北斎が制作した「絵本駅路鉢」と呼ばれる中判の錦絵です。無落款ですが、北斎の「東海道五十三次」のうちでは代表的なもので、旅人の風俗を中心に描いた作品となります。

歌川広重画

（佐野喜版／狂歌入東海道）東海道五拾三次

保永堂版の次に広重が刊行した東海道シリーズのひとつが佐野屋喜兵衛を版元とした「狂歌入東海道」と呼ばれる「（佐野喜版）東海道五拾三次」です。広重の東海道の中でも江戸時代後期に流行した狂歌を取り入れた特徴的な作品となっており、制作経緯は明らかではありませんが、広重と狂歌師の交流を背景として制作されたと考えられています。

歌川広重画

（葛吉版／豎絵東海道）五十三次名所図会

豎判であることから「豎絵東海道」と呼ばれる大判の「東海道五十三次」です。葛吉を版元として刊行された55枚揃のシリーズで、歌川広重晩年の作となります。

葛飾北斎画 春興五十三駄之内

江戸時代の著名な絵師・葛飾北斎（1760～1849）は享和～文化年間頃（1801～18）まで7種の東海道五十三次を制作していることで知られています。

「春興五十三駄之内」もそのひとつで、穏やかな色彩と繊細な彫りを特徴として宿場の風俗を描いた作品です。

歌川広重画（保永堂版）東海道五十三次之内

天保4～5年（1833～34）にかけて主に保永堂から55枚の揃物として刊行された「東海道五十三次」です。歌川広重（1797～1858）の出世作として知られる最も有名な「東海道五十三次」です。

歌川広重画（葛吉版）東海道五十三次之内

歌川広重は生涯にかけて多くの「東海道五十三次」を制作しています。江戸の南伝馬町（中央区京橋）に店を構えた葛吉を版元とする「（葛吉版）東海道五十三次之内」は、嘉永年間（1848～54）にかけて刊行されたシリーズで、いわゆる広重ブルーと言われるベロ藍の美しい青を特徴とした作品です。

3代 歌川広重

「東海道五十三次」を数多く制作した歌川広重を初代として、その名を継承した絵師は5代まで続きました。その中で初代の門人で娘婿となった3代歌川広重（1842～94）は、江戸時代末から明治時代にかけて、初代と同じく東海道五十三次を制作しています。